

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC3M105</b> <b>ピアノⅤ (弾き歌いを含む)</b>	木村 博子・田中 幸子・塩津 貴子	クラス分け	1単位	こども学科 3年次	前期	必修			選択必修	B D E F
授業のテーマ及び到達目標										
子どもの感性を伸ばす音楽を探索する。 保育の現場に合う童謡の伴奏と弾き歌いの力をつける。 右手旋律・左手コードまたはベース奏、両手コード伴奏、その場に合う編曲ができるようになる。 8、9月の保育実習、幼稚園教育実習へ向けての実習判定曲を全て暗譜で自由に弾けるようになる。	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	オリエンテーション ハ長調のコードの復習 園生活の歌	シラバスを読む付点リズムに気をつけ元気な音で弾く	レッスンカードの活用、実習判定までの計画を立てる	9	二長調のコード・転回形 夏の歌	課題曲に動きをつけてと仮定して弾き方を研究する	移調奏、先読み、弾き歌いの練習			
2	旋律と伴奏コードのバランス 園生活の歌	園児に旋律を指導する想定でバランスを意識して練習	「旋律の扱えた音、左手指は支え」を身につける	10	付点リズムと三連符 伏活な童謡	5番までの歌詞を覚え、ハ長調のコードを復習する	ト長調、ハ長調両方自由演奏できるようにする			
3	弾き歌いの基本 園生活の歌	歌詞を暗譜していく	明るく元気な音色のために必要な指の基礎訓練を考える	11	付点四分音符と付点八分音符 園生活の歌	コードとアルペルティバス両方の復習をしておく	音楽的に正しい付点リズムを自由に使えるようになる			
4	実習判定① 園生活の歌	完全に暗譜し、元気よく弾き歌い練習をする	左手と歌、右手旋律を弾きながら歌い、バランスをとる	12	実習判定③ 軽快な付点リズムの歌	「さんはい」直後からしっかり歌い始める練習をする	振り向き、笑顔に完全に慣れる練習を積む			
授業の概要										
実習時を想定し、暗譜・笑顔・振り向きながら、目の前の幼児に語りかけるピアノ伴奏および弾き歌いのための個人レッスンをを行い、実習判定に臨む。	5	前奏の効果 二長調の童謡	「さんはい」に合わせやすい前奏の終わりを研究する	13	初秋の風情を歌う 現場で必須の歌	3番までの歌詞を完全に暗譜する	風景を思い浮かべ絵を描けるような表現の工夫			
実習時期に合わせて、季節、生活、行事の歌を課題曲として判定を行う。	6	情緒豊かな歌詞を活かす 日本の童謡	歌詞を読み込み、フレーズを大切に歌う練習を大切にする	14	元気な発声をめざす 行事の歌	同じ行事の別の曲を調べる 調べる歌う	伴奏を自由に使えるようにし、難関の高い版も練習			
	7	ペダルの効果的使用法 登場回数が多い園生活の歌	誰でもロズさめる曲を音楽的に正しく理解する	15	レパートリーの仕上げ まとめ	実習判定基準に沿って課題曲の表現方法を整理し暗譜	こどもの動きや感情に寄り添った表現を探索する			
	8	実習判定② 年間通してよく歌われる歌	教科書を基に曲や自分に合う伴奏型を考え練習する							
教科書・テキスト等	ポケットいっぱい(うた)(鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)			ピアノ・弾き歌い実技試験	80%	かけ声・振り向き・音程・音楽性				
				平常点(態度・行動観察)	20%	毎回のレッスン状況、取り組みの姿勢				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC3M106</b> <b>ピアノⅥ (弾き歌いを含む)</b>	木村 博子・田中 幸子・塩津 貴子	クラス分け	1単位	こども学科 3年次	後期	必修			選択必修	B D E F
授業のテーマ及び到達目標										
ピアノⅤまでに培った力を活かし、保育現場で提供するに相応しい、更に深い音楽を求めている。童謡の音楽性、保育の現場に相応しい伴奏の編曲、コード伴奏を確実なものにし、課題は全て暗譜する。 歌詞の読み取り、意味を考えた譜読み、自分に合った編曲など、自分で切り拓いていく力をつけることを目標とする。	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	オリエンテーション 実習の振り返り	実習中の曲を弾き歌いし、音楽活動について確める	レッスンカードに振り返りと今後の目標を書き込む	9	ハ長調のベース伴奏と分散和音 冬の歌・行事	ハ長調コードの復習をし、楽譜になり前奏を考える	強弱記号がない曲の緊張の解決を楽譜から読み取る			
2	拍感と強弱 秋の歌	動作を伴う元気よい曲と抒情的な曲との違いを練習する	オペレッタの演出を想定し、応用法を考える	10	スタッカートと擬音語 季節の歌・冬	歌詞読みを曲に合うスタッカートの奏法を研究する	二長調をハ長調に移調し、楽譜にも書けるようになる			
3	ハ長調の復習 活気溢れる曲と情緒溢れる童謡	ベース伴奏を拍に乗せる練習	親子愛に満ちた音色とタッチを研究し身につける	11	ハ長調の復習 行事の歌	解離型コードに慣れハ長調の音階とカデンツを練習する	オリジナルの前奏を身につけるようにする			
4	変ロ長調のコード 運指を考える	ベース伴奏で右手の旋律を歌が聞こえるように奏する	両手伴奏で弾き歌いの練習をする	12	実習判定② 冬から春への歌	曲調に沿った表現で完全に暗譜する	一緒に歌いたくなる伴奏とは何かを探索する			
授業の概要										
現場で役立つ、子どもに合う編曲、移調、コード伴奏、両手伴奏等、様々な形に慣れさせるようになるための徹底した個人レッスンを積んでいく。 冬、早春の課題曲で実習判定を行う。	5	実習判定① 季節の歌と日本の童謡	フレーズと音価を含めてきちんと暗譜する	13	変ロ長調のコード 早春の歌	調号の確認、左手の主要三和音を練習しておく	黒鍵を親指、5指で弾くことに慣れる			
	6	ピアノ曲に取り組み クラシックの小品	取り上げる曲の調のスケールとアルペジオの練習をする	14	ハ長調とハ長調の復習 表現が難しい曲	音楽の呼応に情感を込める	簡易伴奏のベースの選び方と奏法に工夫を凝らす			
	7	ピアノ曲のレッスン 練習の密度を受講のしかたを学ぶ	作曲家、曲の背景、作品番号、原典版について調べる	15	ピアノⅥの振り返り まとめ	2/4、3/4、6/8拍子の復習をする	日本語の美しさを感じ、伝えるための技量を備える			
	8	ピアノ曲の仕上げ 成果発表	楽譜に自分の注意事項を書き込み、発表会に暗譜を決める							
教科書・テキスト等	ポケットいっぱい(うた)(鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)			ピアノ・弾き歌い実技試験	80%	かけ声・振り向き・音程・音楽性				
				平常点(態度・行動観察)	20%	毎回のレッスン状況、取り組みの姿勢				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC3M2T07</b> ピアノⅦ (弾き歌いを含む)	木村 博子・田中 幸子	クラス分け	1 単位	こども学科 4 年次	前期	選択必修			選択必修	B D E F
授業のテーマ及び到達目標										
子どもの言葉の発達を促し、豊かな心や優しさを育む一翼を担う童謡を、音楽的に深く理解し、こどもの心に寄り添う伴奏で指導できるようにする。 保育現場に合う童謡の伴奏と弾き歌いの力をつけて実習に臨む。 童謡の移調やアレンジ、両手伴奏など与えられた課題ができるようになる。	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	オリエンテーション 基本の復習	ハ・ヘ・ト・二長調のコード、カデンツを練習する	各同主調でも弾く実習判定の練習計画を立てる	9	分散和音を拍子にのせる 重くならない左手	1拍め＝強拍だが叫びた音にならないようつかんで弾く	4小節を一区切として楽譜を読み取る習慣を身につける			
2	旋律と伴奏のバランス 園生活の歌	左手伴奏の音数・厚みによりバランスを変える	判定判定課題を自己の効率よい練習順序に整理する	10	躍動感、印象に残る特徴的な歌 秋の自然の歌	両手伴奏で弾き歌いができるようにする	歌として表現するたの基礎練習の音が活かせるか考察			
3	音色と指先 細かい練習によって鍛えられる感覚	歌詞やフレーズを考慮して暗譜し音色。音量に反映させる	明るい音色に必要な指先のコントロールを訓練する	11	情景を伝える 風情ある秋の歌	音価を大切に、呼吸を伴って歌を正しく覚える	旋律と歌、左手と歌を別々に練習して音楽観を得る			
4	弾き歌いを上達させる 部分練習とソルフェージュ	歌っても影響がないピアノの安定感を求めた練習	右手旋律を弾きながら歌い、バランスを整える	12	実習判定② 夏から秋の歌	練習、振り向きに完全に慣れる工夫を積んで判定に臨む	右手を少し抑えて歌とのバランスをとる習慣をつける			
授業の概要										
実習時を想定した「暗譜・笑顔・かけ声・振り向き」を完全に身につける。 目の前のこどもに語りかけるピアノ伴奏および弾き歌いのための個人レッスンをを行う。 実習時期に合わせて、季節、生活、行事の歌を課題曲として判定を行う。	5	実習判定① 夏の歌・園生活の歌	入り易いさんハイ、顔を上げて一緒に歌う先生像をめざす	両手伴奏+歌に慣れるためソルフェージュ力をつける	13	移調奏とアレンジ ハ・二・ヘ・ト長調	ハ長調とニ長調のコードを演奏と記譜で復習する	主要三和音のコードを演奏と記譜で復習する		
6	リズムカルな童謡・唱歌 刻みと付点リズム	明るい音色のタッチ、軽快な付点リズムを身につける	指先で鍵盤を捉えるスタカート奏法を研究する	14	移調奏とアレンジ 長調と短調	長調と短調の響きの変化を聴き取り、表現に繋げる	響きの明暗、強弱など変化に注目する習慣をつける			
7	拍感をしっかりと意識する よく歌われる歌	頭の中で指揮をして拍子を感じて練習する	正しい拍子・リズム・音程で歌う訓練を習慣づける	15	実習に向けて まとめ	課題曲の完成度を上げ、明るく歌えるようにする	実技試験に向けて弾き込み歌い込みを万全にする			
8	ハ長調と変ハ長調 夏の歌	変ハ長調について調べる(音楽理論的復習)	ハ長調簡易版でも前奏は原曲の形を用いる等工夫する							
教科書・テキスト等	ポケットいっぱい(鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)			ピアノ・弾き歌い実技試験 平常点(態度・行動観察)	80% 20%	かけ声・笑顔・振り向き・音程・音楽性 毎回のレッスン状況、取り組みの姿勢				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>KC3M2T08</b> ピアノⅧ (弾き歌いを含む)	木村 博子・田中 幸子・塩津 貴子	クラス分け	1 単位	こども学科 4 年次	後期	選択必修			選択必修	B D E F
授業のテーマ及び到達目標										
保育現場で子どもに向き合い、寄り添う音楽の在り方を音楽大学で学ぶ意義と併せて、より深く探求する。 移調奏やアレンジ、コード伴奏、両手伴奏による弾き歌い等あらゆる形に対応できる。 確実に暗譜し、子どもの様子を見ながら弾き歌いする。	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	オリエンテーション 実習の成果発表	実習時の音楽活動等についての発表準備	レッスンカードの活用を再認識し、目標を書き込む	9	移調奏とアレンジ 冬の歌・行事	ハ・二・ヘ・ト長調のコードを復習しておく	長2度上下行に慣れたら短2度上下行に挑戦する			
2	コード伴奏とベース伴奏 秋の歌	楽譜にコードネームを書き入れて音楽理論の復習をする	手遊び歌を笑顔で指導する、伴奏する役割に分けてみる	10	スタカートとマルカート 季節の歌・冬	連打するコードの弾き方を復習する	近隣調に移調し、楽譜を書く復習をする			
3	正しい音程の復習 ソルフェージュの基礎	4度上行、5度上下行、8度上行の音程を正しく歌う	両手伴奏の時の歌に自信がもてるまで練習する	11	二長調の復習 早春の行事	左手だけ伴奏しながらバランスのよい声量で歌う	擬音語の歌い方、弾き方を研究し、楽しさを伝える			
4	歌詞とフレーズ 表現を考えたソルフェージュ	音価と休符に注意しフレーズの終わり方を考えて歌う	和声の機能による緊張と解決を理解し、歌に反映させる	12	成果発表③ 短い設定保育	園児への語りかけ、声のトーンも研究する	園児の顔を見ながら楽しく歌うところまで練習する			
授業の概要										
ピアノⅦまでに習得した楽譜の読み取り方、歌詞読みによりフレーズの捉え方、表現の向上のための個人レッスンをを行う。 就職試験対策としてピアノ曲や弾き歌いのレッスン、卒業後すぐに必要になる定番の童謡の指導も行う。 実技試験では、ピアノ曲(自由曲)、伴奏曲、弾き歌い曲の3曲とする。	5	確実な暗譜 意識的暗譜と身体的暗譜	部分練習と片手練習をくり返すことの効果を実感する	技量と必要な練習量を知り頭と身体両面から暗譜する	13	アルペルティバスを滑らかに弾く 春の歌	左手の部分練習を行い、リズム変奏で指の訓練をする	既成の編曲を参考にして画一的な伴奏をアレンジする		
6	成果発表① 弾き歌い、移調奏、ピアノ曲他	個人のベースと就職試験に合わせて、自由曲を用意する	演奏マナー、聴くときの態度ができていたか振り返る	14	4年間の振り返り 卒業後に役立つ課題	就職先の園歌や未だの曲の楽譜を譜読みし予習する	教員の助言を参考に練習の仕方を考える			
7	ピアノ曲 クラシック、アニメソングのピアノ ソロ他	作曲家、曲の背景を調べ、出版社・版も比較する	楽譜から曲の内容を読み取れていたか振り返る	15	試験課題曲	後期実技試験課題に取り組み	実技試験曲を仕上げ今後の課題の練習計画を立てる			
8	成果発表② ピアノ曲の仕上げ	曲について調べたことをメモし使いやすい楽譜を作る	音楽用語、記号をまとめ、大譜表の書き方を復習する							
教科書・テキスト等	ポケットいっぱい(鈴木恵津子・富田英也編著 教育芸術社)、こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)、続・こどものうた200(小林美実編 チャイルド社)		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	日本童謡200選(日本童謡協会編 音楽之友社)、音楽リズム・幼児の歌(小林美実編 東京書籍)			ピアノ・弾き歌い実技試験 平常点(態度・行動観察)	80% 20%	かけ声・笑顔・振り向き・音程・音楽性 毎回のレッスン状況、取り組みの姿勢				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M105 合唱V	菊村 隆史	単独	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要										
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M106 合唱VI	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要										
コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	反省と総括	演習楽曲の研究と練習	合唱音楽についてまとめる		
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する。、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T07 合唱Ⅶ	菊村 隆史	単独	2単位	音楽学科・こども学科 4年次	前期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標										
授業計画										
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるプレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）ンについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガスム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	備考 ※声楽コース必修・その他の音楽学科の各コース及びこども学科は選択					
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する。、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題が活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MC3M4T08 合唱Ⅷ	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2単位	音楽学科・こども学科 4年次	後期	※				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標										
授業計画										
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	反省と総括	演習楽曲の研究と練習	合唱音楽についてまとめる		
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	備考 ※声楽コース必修・その他の音楽学科の各コース及びこども学科は選択					
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏 課題 / レポート 平常点（態度・行動観察）	50% 30% 20%	演奏に学修課題を活かしている 合唱曲、アンサンブルについての考察 授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>MC3M1C30 指揮法</b>	出田 敬三	単独	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	前期	必修	必修		選択必修	AB
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基礎的なバトンテクニックと音楽表現法を修得し、教育現場等において様々な形態・編成に対応できる実践的な指揮を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要 指揮法は各領域の教育現場等におけるもっとも重要な科目の一つである。本講座では指揮の基本から“音楽創り”まで幅広い実用的な演習を行う。	1	●指揮の重要性と指揮者の役割 ●指揮者に必要な音楽知識 ●予備拍(ブレス)	シラバスの熟読	課題演習 ノート整理	9	●作品のアナリゼ(楽曲分析) ●教材(童謡・唱歌・歌曲・ピアノ曲等)を使った演習と表現法	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	2	●指揮の基本(指揮棒の持ち方・姿勢・動作・叩き等) ●1つ振り(1拍振り) ●2拍子(マルカート・スタッカー)	前回の復習	課題演習 ノート整理	10	●合唱曲の研究と合唱指揮の演習Ⅰ。 ●指揮棒を使わない指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	3	●3拍子・4拍子(マルカート・スタッカー) ●音の入り方(開始の合図)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	11	●合唱曲の研究と合唱指揮の演習Ⅱ。 ●無伴奏と伴奏の指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	4	●6拍子(マルカート・スタッカート) ●音の切り方(終止の指示)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	12	●器楽曲(リード合奏曲・オーケストラ曲等)の演習Ⅰ。 ●スコアリーディングⅠ。 ●ワルツの指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	5	●1つ振り(1拍振り) ●2拍子・3拍子・4拍子・6拍子(マルカート・スタッカート)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	13	●器楽曲(リード合奏曲・オーケストラ曲等)の演習Ⅱ。 ●スコアリーディングⅡ。 ●式典・マーチング・ポップス等の指揮	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	6	●2拍子・3拍子・4拍子・6拍子(レガート)	前回までの復習	課題演習 ノート整理	14	●分割と変拍子 ●的確な指揮と豊かな音楽表現法	前回までの復習	課題演習 ノート整理		
	7	●音の強弱(ダイナミックス)の表現法 ●各拍子(マルカート・スタッカート・レガート)の復習	前回までの復習	課題演習 ノート整理	15	●実技試験のための実習 ●総括・まとめ	実技試験課題演習	課題演習 ノート整理		
	8	●アインザッツ ●左手の合図と効果的動作 ●Tempoの変化とフェルマータ	前回までの復習	課題演習 ノート整理						
教科書・テキスト等	授業毎にプリントを配布,指揮棒、ノート、定規を持参			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験 平常点(態度・行動観察)	80% 20%	実技試験 授業や演習への積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
<b>MC3M4C54 作曲法(編曲法含む)</b>	出田 敬三	単独	2単位	音楽学科・こども学科 3年次	後期	選択	必修		選択必修	AB
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲の基礎とその応用について理解し、幅広いジャンルの作曲・編曲技法を修得し、様々な現場において対応できる実践的な能力を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要 作曲の基礎とその応用について講義する。第一に、メロディーの作り方、和音のつけ方、対位法、変奏の方法、各々の楽器・声(歌・合唱)の活かし方について講義を行う。第二に、編曲の実習を行う。ジャンルは合唱曲及び、小編成の楽器アンサンブル、吹奏楽などのクラシックからポピュラーまで。	1	音楽の流れ、様々な種類の音楽、作曲家と代表作品、音楽スタイル等の音楽の基礎知識を学ぶ	シラバスの熟読	課題演習 ノート整理	9	合唱の種類と編成、二部合唱、三部合唱、混声合唱の編成、合唱の伴奏	課題実習	課題演習 ノート整理		
	2	音楽の三要素、音階についてⅠ、Motivとその発展、一部形式	課題実習	課題演習 ノート整理	10	様々な形式の楽曲のアナリゼ	課題実習	課題演習 ノート整理		
	3	主要三和音、カデンツ、二部形式、三部形式	課題実習	課題演習 ノート整理	11	ソナタ形式、楽曲のアナリゼ	課題実習	課題演習 ノート整理		
	4	音階についてⅡ、副三和音、和音の転回形、非和音、借用和音	課題実習	課題演習 ノート整理	12	各楽器の特徴と音域、合奏作品分析、合奏編曲についての実習(リード合奏・アンサンブル)	課題実習	課題演習 ノート整理		
	5	基本的なピアノ伴奏型と楽譜の書き方、様々な伴奏形態	課題実習	課題演習 ノート整理	13	各楽器の特徴と音域、合奏作品分析、合奏編曲についての実習(吹奏楽・管弦楽)	課題実習	課題演習 演奏の準備		
	6	メロディーと歌詞について	課題実習	課題演習 ノート整理	14	実習課題の発表(歌曲・アンサンブル・コラボレーション)	演奏の準備	提出課題の準備 講義ノートのまとめ		
	7	コードネームと和音記号、反復進行、副旋律	課題実習	課題演習 ノート整理	15	基礎的な作曲・編曲の技術、音楽全般の常識についてまとめる	授業のまとめ	提出課題の準備 講義ノートのまとめ		
	8	コードネームによるハーモニーの付け方と編曲	課題実習	課題演習 ノート整理	備考 ※音楽学科・音楽文化コミュニケーション専攻は必修科目。音楽学科・演奏表現専攻は、選択科目。こども学科は、選択科目。					
教科書・テキスト等	授業毎にプリントを配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験 課題/レポート 平常点(態度・行動観察)	80% 10% 10%	筆記試験、作品提出 作品提出 積極的な授業や課題への取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
KCSM2T29 ハーモニーⅡ	木村 博子	単独	2単位	こども学科 3年次	前期	選択必修			選択必修	CDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
コードネームを見て伴奏が付けられるようになる。また、童謡曲やこどもの曲を様々な伴奏形で演奏し、移調もできるようにする	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業についての説明 機能や和声やコードの確認テスト	ハーモニーⅠの復習	確認テストの振り返り	9	童謡・子どもの曲のコード伴奏と移調 (二長調)	課題曲の旋律を弾く	課題曲を移調する		
	2	童謡・子どもの曲のコード伴奏と移調 (ハ長調)	課題曲の旋律を弾く	課題曲を移調する	10	童謡・子どもの曲のコードを分析とアレンジ (二長調)	課題曲を弾いてコードを考える	授業でのアレンジを基に自分で考える		
	3	童謡・子どもの曲のコード分析とアレンジ (ハ長調)	課題曲を弾いてコードを考える	授業でのアレンジを基に自分で考える	11	童謡・子どもの曲のコード伴奏、移調 (ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調以外の調)	自分で曲を選び旋律を弾く	課題曲を移調する		
	4	童謡・子どもの曲のコード伴奏と移調 (ハ長調)	課題曲の旋律を弾く	課題曲を移調する	12	童謡・子どもの曲のコードを分析とアレンジ (ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調以外の調)	自分で選んだ曲を弾いて、コードを考える	授業でのアレンジを基に自分で考える		
授業の概要										
ハーモニーⅠで学習したコードネームやキーボード・ハーモニーを発展させ、保育や幼児教育の現場で実践できる力をつける。童謡曲・こどもの曲のコードによる伴奏付けや移調、アレンジも行う。また、幼児の音楽表現活動ができるように簡単な即興演奏法も学ぶ	5	童謡・子どもの曲のコードを分析とアレンジ (ヘ長調)	課題曲の旋律を弾く	課題曲を移調する	13	アンサンブル	課題曲を聴く	自分のパートを練習する		
	6	童謡・子どもの曲のコード伴奏と移調 (ト長調)	課題曲の旋律を弾く	課題曲を移調する	14	アンサンブル (いろいろな音色に変えて演奏)	音色を考える	自分以外のパートも練習してみる		
	7	童謡・子どもの曲のコードを分析とアレンジ (ト長調)	課題曲を弾いてコードを考える	授業でのアレンジを基に自分で考える	15	まとめ	発表の準備	発表と授業で行ったすべての内容の振り返りをする		
	8	確認テスト (課題曲のコード伴奏、移調、アレンジ)	これまでの復習	確認テストの振り返り						
教科書・テキスト等	配布プリント		成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等				期末試験	60%	実技試験				
				課題 / レポート	20%	課題への取り組み				
				平常点	20%	受講態度				